

# 第1回 雄物川大規模氾濫時の減災対策協議会 平成28年5月31日開催

## ■雄物川の減災対策協議会について

○平成27年9月関東・東北豪雨等、近年の雨の局地化・集中化・激甚化を踏まえ、雄物川における堤防の決壊や越水等に伴う大規模な浸水被害に備え、隣接する自治体や秋田県、国等が連携して減災のための目標を共有し、ハード・ソフト対策を一体的かつ、計画的に推進するための協議・情報共有を行うことを目的とする。  
○現在の減災に係る取組状況について、国・県・各市町より説明・発言された。

開催日：平成28年5月31日(火)

会場：大仙市大曲交流センター

委員構成：秋田市市長 秋田県 総務部 危機管理監  
横手市長 建設部 部長  
湯沢市長 秋田地域振興局長  
大仙市長 仙北地域振興局長  
美郷町長 平鹿地域振興局長  
羽後町長 雄勝地域振興局長  
気象庁 秋田地方気象台長  
国土交通省 秋田河川国道事務所長  
玉川ダム管理所長  
湯沢河川国道事務所長



▲ 協議会開催状況



▲ 秋田市市長



▲ 横手市長



▲ 湯沢市長



▲ 大仙市長



▲ 美郷町長



▲ 羽後町長

## 首長の発言(取組説明)

### 【秋田市市長】

○ABS放送とFM秋田の2社と、緊急時の優先放送に関する協定を結んでいる。  
○秋田市本庁舎は、非常用電源設備などの重要設備を6階に、災害対策本部室は3階に配置し、河川の氾濫等による浸水に備えている。

### 【横手市長】

○「自分の命は自分で守る」という基本姿勢のもと、H27.4に防災計画を改訂。  
○今年度中に避難所マニュアルの策定と合せ、災害ハザードマップの全面見直しを行う。

### 【湯沢市長】

○市民の情報伝達の体制や方法については、複数手段での伝達体制を確立するために検討中。  
○市民ガイドブック(全戸配付)に避難所・避難場所、災害に対する準備や対応を記載。

### 【大仙市長】

○H23年度～H25年度に、7箇所へ「常設排水ポンプ」を新設し、国、県と連携し、排水を実施。  
○大豪雨などの際は、国土交通省からリエゾンが派遣され、情報が早く入りありがたい。

### 【美郷町長】

○今年度から3ヶ年計画で、各世帯に緊急告知FMラジオを配布する予定。  
○災害時は、各行政区に配置した町職員と行政協力員が、情報伝達や誘導等を行う。

### 【羽後町長】

○豪雨等で防災行政無線が聞こえない場合は、広報車、水防団、消防団などのマンパワーによるさまざまな情報伝達も必要。  
○SNSの活用による情報収集・発信も有効と考えている。

## 首長の発言(意見)

### 【美郷町長】

本日各市町の取り組みの中で合同の訓練などは雄物川の国管理区間に接している市町のものと思うが、今後、県管理河川も一緒なので、県管理河川に面している美郷町も参加したい。

### 【大仙市長】

今回集まっているのは国管理沿川ということだが、大仙市の場合、大きな支川玉川も抱えている。玉川ダムや鎧畑ダムからの情報も入るが、大雨が降れば大洪水になるだろうし、洪水が上流から来ることを考えれば、(玉川上流沿川の)仙北市にも本協議会に入ってもらえないだろうか。大仙市域内であれば何とか状況もつかめるだろうが、上流の状況がわからなければ対応のしようがない。検討願う。

### 【羽後町長】

大仙市長と同じ思い。雄物川上流の方でも成瀬川が皆瀬川を経て羽後町で合流しているため、雄物川本川への影響が大きい。東成瀬村にも参加いただけないか。

### 【湯沢市長】

上流に位置する自治体という立場だが、大仙市長、羽後町長のご意見は大事と考える。流域全体で見るほうが良い。こういう協議のテーブルなので、上流域の市町にも入っていただくことが必要。

### 【横手市長】

どこで被害、災害が起こってもおかしくないの、常に連携するのが大事。今回の協議会には県も入っており、上流域の仙北市、東成瀬村に入ってもらおうことで、全体で情報共有したい。